



倫敦刊行ノ「サタデー、レビュウ」及「タイムズ」西新聞紙ニ日支西國間ノ紛糾ノ事ヲ論セシウ「サタデー、レビュウ」ニ載スル所ハ新聞記者ノ語ニシテ「タイムズ」ニ載スル所ハ横濱ノ報告者ウジエツテ氏ノ語ナリ右ノ中「サタデー、レビュウ」ノ記



倫敦新聞紙ニ臺灣出兵ヲ評ス

ウルナル新聞抄譯

千八百七十四年十月十七日「トローケーイ、ジョ」

第百八十六号

414
A 125
18

大正
侯爵
郵寄
四
大隈

十葉半



者ハ日文西國間ノ紛訟ニ付キ唯僅カニ一條
ヲ纂輯シ丁寧ニ意ヲ用ヒテ寫リ其事ノミヲ凡
シ而シテ其說モ亦詳細ニ右ノ一事ヲ知ラス又敢
テ之ヲ知ルノ姿ヲ為サハル者ニ適當セシモノ
ナリト虽モタイムズ新聞ニ載スル書翰ノ記者
ハ是迄屢シヤバンノイレル新聞ノ為メ痛ク說破
セラレタル報告者中ノ一人ニシテ其知ル所ノ
實事ト稱スル者ハ僅カニ諸新聞紙ヨリ摘撮シ
タル所ニテ曖昧タル浮言ヲ以テ確實ナル事情
ト思ヒ其愚ニシテ條理ノ立ッサル評論ニ偏頗

無形ノ說ヲ交ハタリ蓋シ此類ノ人ハ屢々其愚
論ヲジヤバンノイレル新聞ニ載セタリシカ此新
聞局ノ魁首ハ諸段ノ虚說浮言ヲ嫌フク性アル
カ故ニ余等ノ此ニ論スル所ハ必ス此新聞局ノ
意ト合ス可シ抑右書翰中ノ誤謬ハ實ニ著明ニ
シテ能ク之ヲ知テ不問ニ措ク可キサル者ナレ
ハ夫ノウ、ジエツチ氏若シ余等トイレル新聞局
トノ評論ヲ讀ムニ至ラハ將來斯ク如キ想像
ノ說ヲ記シテ其ニ之ヲ郵送セントスル前ニ暫
ク之ヲ已レニ考慮ス可シ

借第一ニサタデイ、レビユウノ説ヲ觀ルニ其記者ハ苟モ確証メキ事ヲ掲ケサレニ意ヲ用ヒ其初文ニ支那人ト日本人ノ氣質互ニ異ナレハ姿容ヲ示シテ日本人ハ其智識德行共ニ支那人ニ優リタリト云ヒ又其稍々冗長ニ過キタル兩國ノ史記ニ日本ノ開化大ニ進歩シタルヲ稱賛シ次ニ方今西國間紛糾ノ事ニ論及シ出兵ノ次第ト日本政府ノ内國政治ノ為メ其兵ヲ出シタル所以トヲ説キ支那人ハ臺灣ノ事ニ付キ一切之レカ責任ナキ旨ヲ述ヘタリト言ヒ而シテ支那人

ノ斯ク述ベタルハ僅カニ日本ニ賠償スルヲ拒ミタルニ當レルヲ言ヒ又交戦ノ久シク續ク時ハ支那ハ其人員多キニ因リ終ニ勝ヲ奏スヘキ旨ヲ説キ日本ノ臺灣ニ管スル細事ニ付キ支那ト戦ヲ交ユルハ無益ニ屬スレバ臺灣ノ海盜ヲ為ス土人ニ代テ更ニ開化ヤシ人民ノ其地ニ住スル時ハ全世界ノ益ナリト云ヒ次キニ日本臺灣侵攻ノ兵ヲ擧ケシハ其國ノ榮光ヲ輝カシ且ツ戦ノ實用ニ供スヘキ兵ヲ作ランカ為メ深ク考慮ヤシ所ニ因ルト云ヒ外國政府ハ其交戦

為ノ貿易ノ衰頹シ交際ノ紊乱スルヲ徒ラニ
坐視スヘキニ非サルヲ思想シ又日本ニテ軍資
ヲ借入ル可キ模様ト其借入ヲ得ヘキ法方トヲ
簡畧ニ論辨セリ

其他亦更ニ右新聞中ニ論スル所アリテ蓋シ其
論文ハ固トヨリ誤謬ヲ免レシテ例ヘハ日本
人ト支那人ノ兵ニ長スルハ畧相等シク又支那
人ハ臺灣ニ上陸スレハ土人之ニ應スヘキヲ云
ヒ又其記者ハ臺灣全島ヲ以テ生蕃ノ地ト思ヒ
且ツ日本人全島ヲ攻撃シタリト思ヘルカ如キ

皆其誤謬中ニ在リト雖モ此等ハ敢テ重大ノ者
ト称スルニ足ラス此新聞紙ノ趣旨ト言フ可キ
ハ日本出兵ノ結末ヲ先見シ且ツ衆庶ノ其事情
ヲ解セスシテ目今稍之ニ注意セ^ル臺灣一條ヲ
解明シ而シテ其憑據ナキ漠然タル臆説ノ起ルヲ
防カント為スニ意ヲ用フルニ在リ
又ウヰヰ上ツチ氏ノ書翰ニ付テハ予等敢テ之ノ
論スルニ足レリト為スヘキ事ヲ見、總テ皆卑
陋ニシテ價ナキ臆説空論ニ属スト雖モ、^{タイ}ム
ス新聞ノ力ニ憑リ英國ニ於テ日本ノ為メ大害

アル論說ヲ生セシムノ恐レアリ蓋シ同氏ハ其
何等ノ故タルヤヲ知ラスト虽モ恐ラクハ自己
ノ私怨ヲ以テ日本ニ害スルヲ求ムカ如シ
同氏ノ論スル所世人ノ普ク通知スル実事ノ
ニ限レル間ハ其誤謬ヲ免ル故ニ臺灣人ノ琉球
人ヲ殺シ又去年副島ノ北京ニ赴キシ迄ハ斷乎
タル處置ヲ為サリシ等ノ諸事ヲ記スルニ於
テハ敢テ間然スヘキニ非サレズ之レヨリ以下
ノ文ニ至テハ其論甚ク危ク恰モ滑ナル泥路ヲ
歩スルニ異ナラス依テ令其一段落ヲ掲クルニ

日本使節副島ハ其本國ノ畝計ニ付キ支那ノ
疑念ヲ生セシメサル様故ラ偶然ニ支那政府
ノ臺灣ヲ管轄スル權ノ有無ヲ試ミニ支那政
府ニ問フヘキノ自國政府ノ命ヲ奉シ總理衙
門ニ於ケル談話中其通弁官ヲシテ衙門ノ一
大臣ニ支那ハ臺灣蕃地ヲ管轄スル權アリヤ
ト問ハシメシカ元來支那人ハ斯クノ如キノ
問ヲ受クルニ方リテハ其實事ノ如何ヲ問ハ
ス必ス先ツ否ト答フルノ癖アリテ之ヲ以テ
恰モ一時其身ヲ護スル鏡ト為スカ如ク而ノ

後復之レカ要需ヲ受ケサレハ更ニ其鑑ヲ
脱セント欲スルヲ以テ其天性ト為シ且ツ支那
人ノ心中ニハ虚言ヲ吐クヲ悔ユルヲアラサレ
ハ当時日本人ノ間ニ答ヘテ支那ニ蕃地管轄ノ
權ナシト言ヒ談話其休ニテ止ミタリシカ副島
ハ之ニ因リ已レカ要ト為ス所ヲ得テ速カニ
江戸ニ歸リ日本人忽チ其畧計ヲ定メタリ
右ノ文意ニ就キ以テ之ヲ觀ル時ハウヅジエツテ
氏ハ獨リ支那人ノ詭詭ヲ助ケテ之レカ辨解ヲ
為スノミニアラス同人ノ言ニ「副島ハ故テ偶然

ニ其通并官ヲシテ總理衙門ノ大臣ニ支那ハ臺
灣全島ヲ管轄スルノ權アリヤト問ハシメシニ
大臣等支那ニ全島管轄ノ權ナシト答ヘシレバ
是レ即チ支那風ノ虚言ニシテ敢テ真ニ其管轄
ノ權ナシト述ヘタルニハ非ス而シテ又談話其休
ニテ止ミタリシカ副島ハ之ニ因リ已レカ要ト
為ス所ヲ得テ速カニ日本ニ歸レリ云々ト云フ
ト虽モウヅジエツテ氏ノ此文ヲ記セル時即チ六
月十九日頃ニ於テ、其月十三日ノ當局新聞紙
ニ「副島氏總理衙門大臣ト應接ノ時已レノ意見

ヲ述ヘシニ支那大臣ハ臺灣南方ノ土人ハ我カ
管轄ノ及ホス所ニアラサルカ故ニ貴政府隨意
ニ之ヲ懲懲スヘキ權アリト答ヘシ旨ヲ載セシ
ルノ外一切ウジエツチ氏ノ憑據ト為シ得ベキ
實事アルトナク然ルニ同氏ハ此基礎ニ憑リテ
一箇ノ臆說ヲ作り當局新聞紙ニ載スル所ノ中
幾許カ其實ヲ得タル旨ヲ認ムルト雖モ畢竟支
那人ニ理アリト云ヘリ蓋シ同氏ノ說ハ當時「
ヤパン、メー、ル」新聞(即チ六月二十日分)局ノ世ニ
公ケニセシ意見ヲ採用スル者タリト雖モウジ、

エツチ氏ハ一トシテ其說ノ確實ナル憑據ヲ示
ス能ハス同氏ハ凡ソ皆今アルヲ在テ將來アル
知ラサル報告者流ニテ毫モ思慮ナク濫ニ其說
ヲ吐露シ少クモ四ヶ月ノ間ハ何人モ已レカ說
ヲ咎ムル者アラサル可シト思ヘリ惟フニ同氏
ハ日本ニ其政府ヨリ全々得テ其口ヲ糊スル者
タルヘキニ右ノ如キ說ヲ述フルハ其人ノ為メ
大ナル恥辱ニシテ又甚タ卑劣賤ム可ク且ツ其
思ヲ忘レタレハ夫レ已レニ知ラサルヲ知レリ
ト為ス報告者流、虚言ヲ露出シテ其實ヲ世人

ニ知ラシムルノ才能アル記者ハ須ラク同氏ノ
説ヲ痛ク論破スヘキナリ

加之ウ、ジエツチ氏ハ一箇ノ新説ヲ見出シ、大久
保ハ臺灣若クハ朝鮮ニ兵ヲ發遣スルノ約ヲ為
サ、レハ動搖スル兵士ヲ鎮定スルノ道ナキ旨
ヲ佐賀ヨリ江戸ニ電報シ終ニ此事ニ付キ政府
ヨリ全權ヲ委セラレタリ云々ト云ヘリ而シテ此
事ノ如キハ余等ヲ知ラサル所タレド萬一斯ク
ノ如キ事ノアリシモ又計リ難キカ故ニ余等敢
テ之ニ抗論ヤス次キニ同氏ノ言ニ「日本兵ヨリ

(但シ臺灣ニ在ル者ヨリ)江戸政府ニ其戦ニ全樓
ヲ得タレハ當時北京ニ派出セシ使節ハ確乎ト
シテ談判ヲ為スヘキ旨ヲ電報セリ云々ト云ヘ
リ
諸日本人ノ牡丹社ヲ征服ヤシ頃或ル外國人一
名(但シ其姓名ハ知ラス)大隈ニ臺灣事情ヲ聞カ
ント云ヒシニ大隈ヨリ同氏ニ政府ノ一官員カ
許ニ至テ之ヲ聞クヘキ旨ヲ告ケタリ然ルニ同
氏ハ右一員ヲ許ニ至ルト虽モ其事情ヲ問フ
ク其官負モ亦敢テ之ヲ告グルトナシ蓋シ余等

カ推察ニハ右外國人トヲジエツチ氏トハ恐ク
ハ同人ニシテ若シ果シテ然ラハウジエツチ氏
ハ臺灣事情ヲ知ルヘキノ術ヲ棄テツリト見ヘ
若シ同氏右一官員ニ問ビシナラハ必ス幾許々
其知ラザル所ヲ知ルヘク出兵ニ加ハリシ内外
ノ士官ハ皆其筆ヲ採ルニ謹慎シ臺灣ヨリ贈リ
越シタル書状中ニ北京ニ在ル日本使節ノ處置
振ヲ未タ嘗テ一言モ論シタルトナキ旨ヲ右一
官員ヨリ同氏ニ先^告ケタルナル可シ而シテ又余等
ハ繼令自カラ其實事ヲ知ラザルモ六月十九日

ニハ日本使節ノ北京ニ在ル者ナク又其後暫ク
ノ間ハ日本ヨリ支那ニ使節ヲ派遣ヤシトメキ
ヲ以テ余等々証トス可シ又横濱刊行ノ一新聞
紙ニウジエツチ氏ノ説ヲ論破シテ例ヘハ大久
保ヲ指シテ出兵ノ党ナリト云ヘル説兵隊ノ長
等ヲ進癸セシ以前江戸ヨリノ命ニテ差留メラ
レシノ説ゼ子ラールレザンドルハ臺灣ニ兵ヲ
送ルノ必要タルヲ常ニ外務卿ニ迫リタルノ説
日本ヲ出テシ最初ノ船ハ厦門ニ於テ薪水ヲ積
込ムヘキ旨ヲ支那人ニ乞ヒ支那人ノ許ルシラ

得シリトノ説ハ皆虚言ナリ云々ト云ヒ次キニ
又右新聞紙ニウジエツチ氏ノ書翰ニハ琉球漂
民ノ殺害ニ遭ヒシテニケ年以前ト為スト雖モ
其実ハ大ニニケ年ニ過キ又其書中ニハ日本ニ
於テ其事ヲ安置スルニ付キ好機會ヲ得サルニ
因リ暫ク之ヲ延ハシタル旨ヲ記スト虽モ其実
ハ最初琉球人殺害ノ報日本ニ達シタル時ヨリ
日本政府間断ナク之カ處置ヲ為シタリ云々ト
論シタリ

又ウジエツチ氏ノ結末ノ文ニ日本人ノ處置ハ

能ク其法ニ合ヒシヲ保持ス可カラスト云フト
雖モ其漢シルヤ恰モ風摑ント為スカ如ク畢竟
何等ノ義意モアルトナク加之ウジエツチ氏ハ
臺灣生蕃ノ政治ニ付キ何事ヲモ了知スルノ術
ナク又支那ノ右生蕃地ヲ管轄スル權ノ有無ニ
付キ亦之ヲ了知スルノ術ナク己レカ説ノ基礎
ト為ヌ可キ一寸ノ地ハモ有ヌルトナシ
諸同氏ノ如ク躊躇ノ念ヲ懷クマシテ故テ実事
ヲ纂合シ或ハ之ヲ偽作シ此ニ由テ以テ一瞬時
間モ水ヲ保ツ能ハセレ無底ノ空潭ヲ設ケル者ハ

固トヨリ其言ヲ信スルニ足ラマシテ継令之ヲ
譏ラサルモ其説ヲ評シテ終始一束ク謔謔語ト言
ハサル可カラヌ而シテ同氏ノ説ニ其條理ナク且
ツ其虚言ヲルハ尔後ノ實事ニ就キ以テ之ヲ証
スルヲ得可ク同氏ノ実ト称スル所ハ悉皆虚ニ
シテ其書翰ノ如キハ好事家若クハ前後ノ理ヲ
弁セサル者ニ非レハ苟モ世ノ尊敬ヲ受クル者
ノ敢テ之ヲ記セサル所クル可シ故ニ余等メイイ
ル新聞局ノ助ケヲ得テ夫ノウヂエツチ氏ニ其
職業上ヨリ論スルモ日本ノ名譽ヲ辱ムルニ付

キ論スルモ其書翰ノ説ハ実ニ重大ノ罪科タル
ヲ示スヲ得ハ余等ハ此ニ於テ心ニ滿テリト為
ス可ク唯望ムランハ同氏以後ノ書翰ヲ以テ更
ニ己レカ罪科ヲ重子サラントヲ

算作權大内史

譯